

21世紀と女性

北谷 勝秀

子供と地球の未来のために「2050」代表

もうすぐ21世紀のお出ましである。今世紀には、人類は世界大戦を2回経験し、廃墟から立ち上がった。日本は、帝国主義から民主主義へ転身をし、貧乏国から金持ち先進国となり、世界一の長寿国となった。大変な進歩をしたわけである。反面、払った代償も大きい。都会は車で身動きがとれず、私たちの吸う空気は汚れているし、安心して飲める水も限られている。オゾン層破壊で、人類は皮膚癌や白内障に脅かされている。雨が降れば酸性雨、地球温暖化で水不足、未曾有の環境破壊とゴミの山に取り巻かれて住んでいるのが現代人である。人口爆発、増大一方の貧困層、加えて、地球規模での環境汚染や頻発する地域紛争で、心の休まる暇もないのが世界の実状である。

確かに私たちは物質的には豊かになった。でも、生活の質そのものはどうだろう。決して豊かになっているとは思えない。寿命は延びたものの、老人の多くは半病人または病人である。生活は便利になったが、同時にそれは環境破壊をも意味している。食事は？ 高カロリー・高蛋白、添加物のどっさり入った食品で、いたずらに成人病を増やしている。人々は金儲けに狂奔、あまり他人のことに心を遣わない。この豊かな生活の犠牲になるのが地球であり、私たちのあとに続く世代であろう。悲しいことである。

現代のこういう状態を引き起こしたのは誰だろう？ それは、この世の男性である。洋の東西を問わず、南北にかかわらず、男性である。

今まで女性はすべてのことで除外されてきた。この世で重要な決定に参加させてもらったことはない。すべて男性がとりしきり、決定をしてきた。

「女・子供」は男性の決めたことに従ってきた。いや、従わされてきたと言うべきである。未だに女性には差別されている。仕事をすれば男性優位、賃金もそうである。女性は子供を産む道具ぐらいにしか考えない男性が、まだ非常に多い。経済開発、戦争、企業戦略、みな男性が決断・判断してきて、今、その結果に直面しているところである。日本の繁栄も、世界を覆う環境汚染も、みな男性のなせる業である。男性は破壊と再建を繰り返し、だんだんと人類を破滅の縁へと追いやっている。

途上国の女性には悲惨である。生まれる前から、女性とわかると命を絶たれてしまうことが多い。運よく産んでもらっても、学校や医者に関係のない生活を強いられるし、14～15歳で嫁にやられ、妊娠・出産を繰り返している。二、三の南西アジアの国々では、男性より寿命が短い。子供を産むにしたって、いつ、何人子供を産みたいなどという決定はさせてもらえない。途上国の女性に1年でも長く学校に通ってもらえれば、それだけ、人口増加率が低くなり、収入が増え、国の経済成長が早くなることは、今までの実績で証明されている。

こういう状態を考えると、女性に選択の自由を与え、差別をなくし、社会的な決定に参加してもらうことが、この世を立て直す唯一の方法だとわかる。さらに、地球規模の問題を解決するには女性の参加なしでは考えられない。これからは女性の世の中である。21世紀は女性の世紀である。今こそ女性の立ち上がる時が来ている。

(「2050」事務局 〒106 東京都港区南麻布 3-5-12-201 TEL 03-5420-1425)